

認知症は糖尿病の 5大合併症のひとつ？

担当医



久保 明先生

医学博士 糖尿病内分泌専門医
医療法人財団百葉の会 銀座医
院 院長補佐・抗加齢センター長

認知症に似た正常圧水頭症を発症したYさんのケース

患者氏名	Y・K 様	年齢	73歳	性別	男性	現病歴	糖尿病 単純性網膜症
------	-------	----	-----	----	----	-----	------------

糖尿病の診断を受けて20年ほどになるYさんですが、最近定期検査のときにちよつとおかしなことをおっしゃるようになりました。前回の検診でお話した内容もよく覚えておられません。認知症の疑いがあることから、詳しく検査してみることになりました。

糖尿病の合併症といえば網膜症、腎症、神経障害の3つがよく知られています。最近ではこれらに次ぐ第4の合併症として動脈硬化の早期進展、第5の合併症として脳機能異常が加えられるようになりました。

糖尿病による脳機能異常には、大きく分けるとインスリンの欠乏による認知機能障害とアルツハイマー型認知症の2つがあります。Yさんのおかしな言動も合併症のひとつではないかと考えたのです。

検査の結果は、糖尿病が原因の脳機能異常ではなく、正常圧水頭症でした。正常圧水頭症とは、脳室内に脳脊髄液が過剰に溜まってしまふことにより障害が起こるもので、60代、70代の高齢者に多く発症する病気です。

認知症のような症状が現れますが、歩行障害や尿失禁などを伴うのが特徴です。脳室内の脳脊髄液を抜くシャント手術によって回復が可能であり、Yさんも脳外科で治療を受けていた。だくことになりました。

いずれにしても、糖尿病がある人はアルツハイマー型認知症や血管性認知症などを併発しやすいことがわかっています。定期的にCT検査や脳ドックを受けるなどして、早期発見に努めることをおすすめします。